



WHITESTONE COIN

WHITEPAPER

**Whitestone Gallery Hong Kong**

6F, Heung Wah Industrial Building, 12 Wong Chuk Hang Road, Hong Kong  
[support@whs-coin.com](mailto:support@whs-coin.com)



## TABLE OF CONTENTS

---

1	概要	1
2	トークンセール概要	2
3	資金使途	4
4	トークン保有者特典	5
5	ブロックチェーンによる美術品取引プラットフォーム	6
6	ブロックチェーン美術品取引プラットフォームでできること	7
7	ICO市場について	8
8	世界アートビジネスの可能性	9
9	日本の美術市場の歴史的成り立ち	10
10	日本のアーティストの受難	11
11	ホワイトストーン戦略	12
12	美術市場は規模拡大する	14
13	どのような美術作品に投資すべきか — 国際的評価の出遅れている日本の作家 —	16
14	優れたアーティストの発掘、育成	18
15	ロードマップ	20
16	チームメンバー	21
17	リスク	23
18	最後に（代表あいさつ）	24

# 1.概要

ホワイトストーンギャラリーは1967年の創業以来、近代巨匠絵画から現代美術までの作品を中心に幅広く取り扱っております。百貨店、美術館、新聞社などの主催・後援により著名作家の個展、グループ展、総合展など、全国的に美術展企画を展開する中、日本国内のギャラリーのパイオニアとしてさまざまなアート事業を開拓してまいりました。

21世紀に入り世界の美術マーケットを視野に入れ、世界各地へのアートフェアへの参加や香港、台湾などへの出店など事業展開をさらに拡大しています。

創業50周年を迎えた今年を『改革元年』と位置づけ、美術品と親和性の高いフィンテック技術をアート事業と融合させ、さらなる発展を遂げるためにICOを実施し、資金調達を図ります。



## 2. トークンセール概要

トークンの名称はホワイトストーンコイン（略称：WHS）とします。

トークンセールは2018年1月25日14:00（JST）に開始され、2018年4月3日14:00（JST）に終了します。トークンセールおよび発行総数の決定手順の詳細は以下の通りとなります。

- ・トークン販売価格は以下の通りとします。

1 WHS = 0.0006BTC

1 WHS = 0.01ETH

※すべて約1000円相当となります。

- ・支払いはBitcoin、Ethereumで受け付けます。

これらは世界的に流通しているメジャーな仮想通貨です。法定通貨をいったんこれらの通貨に換えてWHSを購入することになりますが、その方法についてはホームページ上で詳しくご案内します。

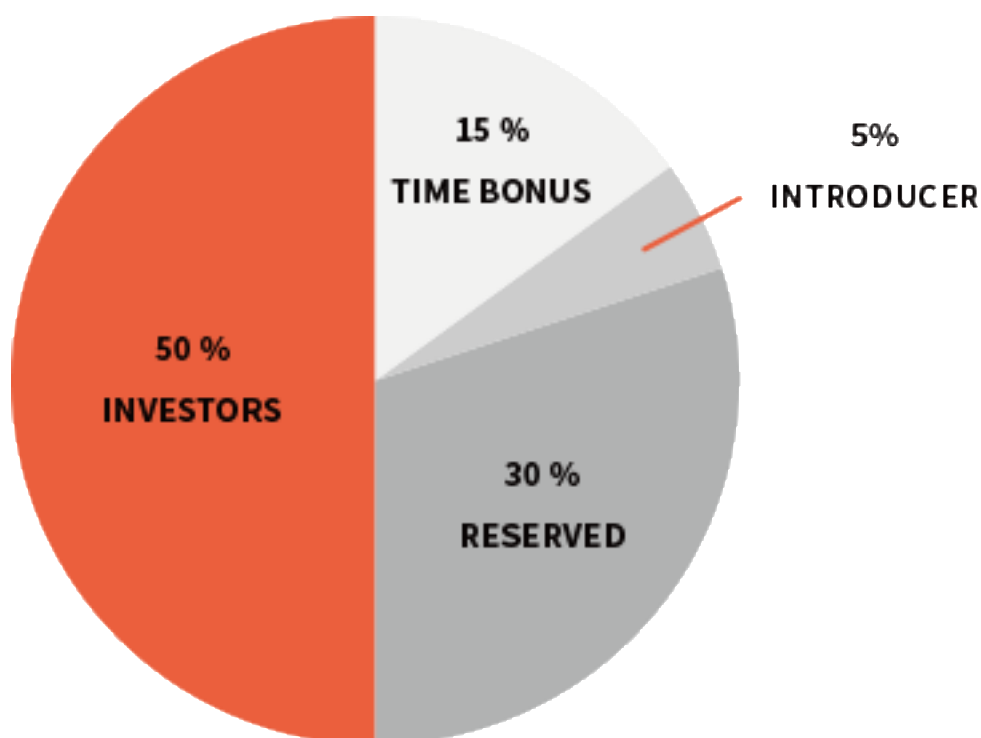
- ・トークンセール時の売り出し発行数上限を5,000,000 WHSとします。

- ・売り出し発行数上限と同数をホワイトストーン保有分として発行し、総発行数は最大10,000,000 WHSとします。

- ・トークンセール終了時に売れ残った分は会社保有分としてリターンし、再募集等に活用します。

・追加発行された会社保有分のうち、最大30%分を先行者特典として配布し、10%を紹介者特典として配布します。残りの60%については広告宣伝費や開発費等ICOにまつわる必要経費などにあてがわれます。

- ・つまりトークンセールの参加者には最大総発行数の70%が配布されることになります。



また、トークンセール中には以下のタイムボーナスが適用されます。

第1期：30%ボーナス	1月25日14：00（JST）～ 2月 8 日14：00（JST）
第2期：15%ボーナス	2月 8 日14：00（JST）～ 2月28日14：00（JST）
第3期：5%ボーナス	2月28日14：00（JST）～ 3月14日14：00（JST）
第4期：ボーナスなし	3月14日14：00（JST）～ 4月 3 日14：00（JST）

例）1月25日に100WHSを購入した場合は30%分の30WHSが付与されるので  
合計130WHS保有となります。

※トークンセール途中で売り出し発行数上限5,000,000WHSが完売した場合は、  
その時点でトークンセール終了となります。

# 3. 資金使途

トークンセールによって得られた資金の使途は以下の通りとします。

【ブロックチェーンによる美術品取引プラットフォームの開発、運営】	・ ・ ・ ・ ・ 30%
【主要都市ギャラリー展開】	・ ・ ・ ・ ・ 20%
【評価の出遅れているアーティスト作品への投資】	・ ・ ・ ・ ・ 20%
【マーケティング予算】	・ ・ ・ ・ ・ 20%
【セキュリティ対策】	・ ・ ・ ・ ・ 10%



## 4. トークン保有者特典

### ① 軽井沢ニューアートミュージアム入場券

10トークンにつき入場券1枚（デジタル配信）

### ② ホワイトストーンギャラリー

（東京、軽井沢、香港、台北など）にて作品購入特典

100トークン以上保有者・・・10%割引

200トークン以上保有者・・・15%割引

500トークン以上保有者・・・20%割引

※一部商品は対象外とします

### ③ オリジナルデジタルアート作品を贈呈

10トークン以上保有者全員に世界的なデジタルアーティスト土佐尚子先生のオリジナル作品をプレゼントします。

10トークン購入者（10以上99以下）	10秒動画（エディション10000）	1個
100トークン購入者（100以上999以下）	60秒動画（エディション1000）	1個
1000トークン購入者（1000以上）	5分動画（エディション100）	1個

※特典アート作品のデジタル配信はトークンセールがすべて終了した後10日以内に行われます。何回かに分けてトークンを購入した方は、合計トークン数に応じてデジタルアート作品が配信されます。例えば第1期に20トークン購入し第2期に80トークン購入した方は合計100トークンになりますので60秒動画1個が配信されます。この作品は本ICOによって発足するオリジナルアートですので、もちろん市場に出回ることがない非売品です。

### ④ ブロックチェーンによる美術品取引プラットフォームへの参加

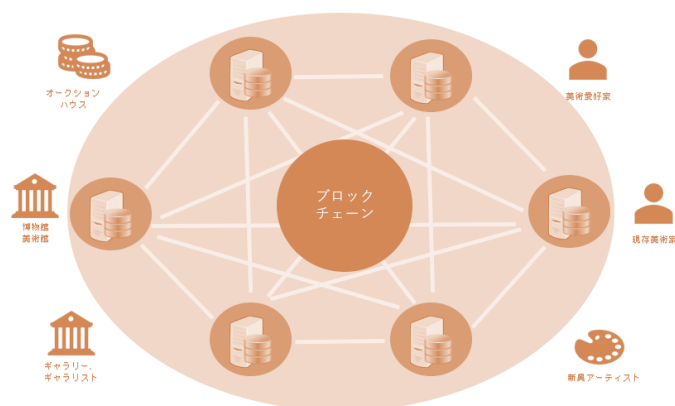
ブロックチェーン美術品取引プラットフォームが完成し、運用が開始されましたらトークン保有者には参加権利が得られます。プラットフォーム上において公開された美術品の閲覧や売買および決済などが可能になります。

※同プラットフォームが完成し、運用が開始される時点で改めてご案内いたします。





## 5. ブロックチェーンによる 美術品取引プラットフォーム



調達した資金により分散型鑑定済美術品取引プラットフォームの開発に取り掛かります。分散型鑑定済美術品取引プラットフォームとは、アーティスト、美術館、コレクターなどがお互いに鑑定済の美術品を閲覧、鑑賞することができさらにそれらの売買と決済を可能にするネットワークです。

既存の美術品取引プラットフォームでは、第三者が仲介するので出品者とコレクター間で高い取引手数料が必要ですが、ブロックチェーンでは取引を円滑にし、さらに手数料を抑える等既存の取引システムでは不可能であったことを提供できます。

例えば大手オークション会社では買い手数料12～25%、売り手数料10～15%必要ですが、つまり20%～40%が売り買いの手数料です。投資的観点から見た場合、株式や不動産と比較して流通マージンが10倍以上かかることが、美術品の投資効率が悪い理由の一つです。さらに美術品には贋物が存在するため、鑑定のためのコストがかかることも流通マージンの中に含まれます。さらに購入者の美的嗜好に合致させるため、展覧会場での閲覧が必要となりそのコストも含まれます。加えて展覧会を開催するための物流費、保険料なども加わってきます。

このブロックチェーンネットワークは、指紋等による生体認証とブロックチェーンによる秘密鍵を連携させて、鑑定済の美術品を提供する予定です。このシステムにより真贋の問題は解決されます。

さらに後述しますが、絵画取引プラットフォーム上でVR(Virtual Reality=仮想現実)技術により作品を360度、様々な角度から見渡すことや、作品の細部を拡大してチェックし、展覧会場に足を運んだのと同じ臨場感で自分の嗜好にあった作品を選ぶことができます。

売り手と買い手の間でわずかなプラットフォーム使用料と売り手から買い手への物流費のみが流通マージンとしてカウントされるため美術品の投資効率を劇的に高めることとなります。

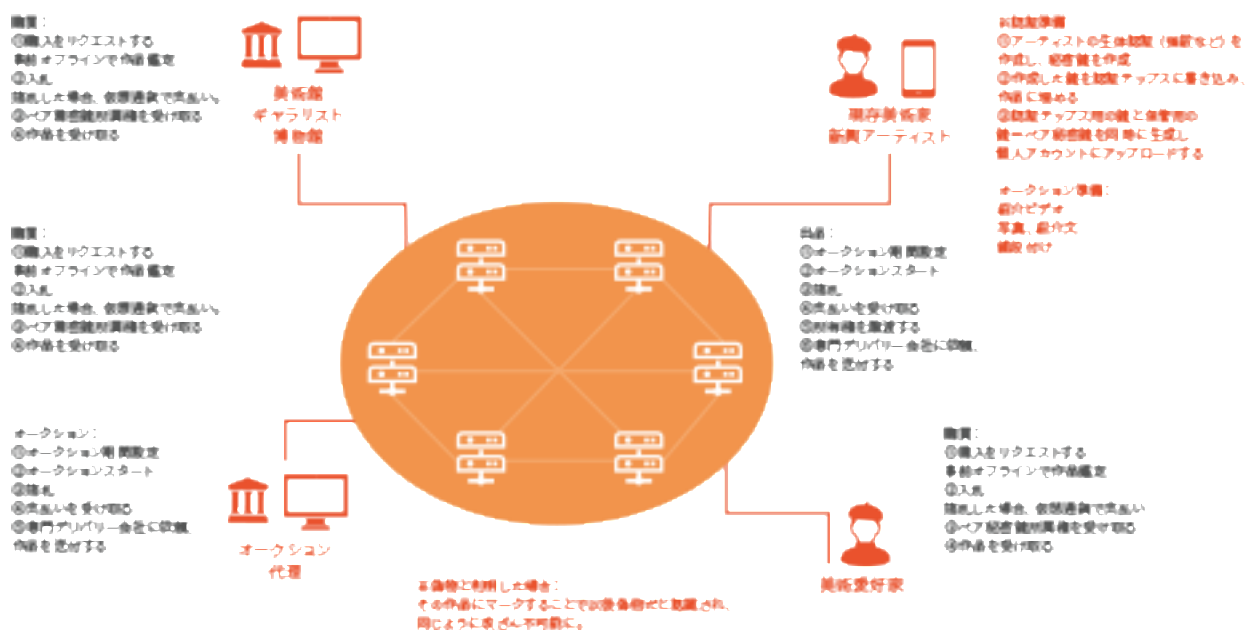
今まで主流であったクライアントサーバ型による1対1の取引ではなく、複数の端末間で通信を行うP2P (Peer to Peer) 型で美術品取引を行います。これによりオークションネットワークをブロックチェーンに基づいた取引プラットフォームに改革し、独自のオークションシステムを構築していきます。

さらにブロックチェーン技術により、すべての取引を匿名で進めることも可能となります。



## 6. ブロックチェーン美術品取引プラットフォームでできること

- ・国際的な美術品オークションや美術品展覧会がVR技術を駆使し臨場感をもって同プラットフォーム上で開催できる
- ・大手オークション会社で12～30%程度かかっていた落札手数料が劇的に安くなる
- ・同プラットフォーム上ですべての取引決済が可能になり、その匿名性は担保される
- ・ブロックチェーン技術により各機関の透明性が担保される
- ・アーティスト、コレクターギャラリスト、オークションハウス、美術評論家等に交流の場を提供できる



オークションの場合、オンライン上で出品から落札まで行われますが、作品の現物を事前に見たい場合には、内覧会として東京、香港、台北などで店舗展開中のホワイトストーンギャラリー等で見ることができます。また遠くの居住者で内覧会に参加できない方にも自宅などから、VR(Virtual Reality=仮想現実)技術により作品を360度、様々な角度から見渡すことや、現地スタッフと通信しながら作品の裏面や細部を確認することが可能です。

これらの改革により独占的な市場であった美術品オークション市場に風穴を開けるだけでなく、共存共栄により世界の美術市場をさらに発展させることができます。また、世界中から有能な新興アーティストを発掘するため、国際的な公募展を計画しています。詳細は後述しますが、世界各国に居住する審査員団による推薦式公募展をこのブロックチェーンプラットフォームを応用して開催し、次世代の優れたアーティストを誕生させていきます。

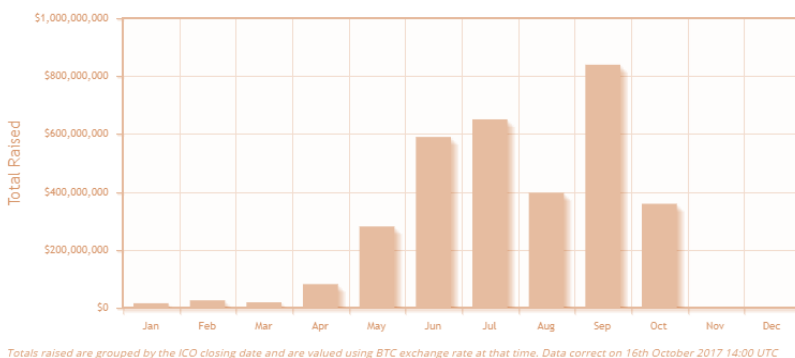
## 7. ICO市場について

ICOによる資金調達額は2017年度第1四半期で3600万ドルに過ぎなかったものの、第2四半期においてはブロックチェーン分野のICOによる資金調達額は7.9億ドル（前四半期比22倍）で、同分野へのVCによる投資2.3億ドルを大きく上回ったこと明らかになりました。

調達金額TOP10すべての発行体が50億円を超える資金を調達しており、今後さらなる成長市場へと期待できます。

### Cryptocurrency ICO Stats 2017

参照URL：<https://www.coinschedule.com/stats.php>



**Total Raised: \$3,256,704,359**

**Total Number of ICOs: 203**

#### Top Ten ICOs of 2017

Position	Project	Total Raised
1	Filecoin	\$257,000,000
2	Tezos	\$232,319,985
3	EOS Stage 1	\$185,000,000
4	Paragon	\$183,157,275
5	Bancor	\$153,000,000
6	Kin	\$97,041,936
7	Status	\$90,000,000
8	TenX	\$64,000,000
9	MobileGO	\$53,069,235
10	KyberNetwork	\$48,000,000

仮想通貨全体の時価総額はICOの伸び率と並行して今年に入って急伸し、1700億ドルを突破しております。マウントゴックス社による横領事件や中国取引所の閉鎖などの障壁も乗り越え、現在も活発に取引されています。

#### Total Market Capitalization



Reference URL：<https://coinmarketcap.com/charts/>

## 8.世界アートビジネスの可能性

世界の美術市場の規模はTEFAFの報告によれば2016年は450億ドルで前年比1.7%UPしています。そのうちアメリカのシェアは29.5%で次にイギリス24%続いて中国は18%を占めています。日本は約2400億円（21億ドル）なので4.6%のシェアしかありません。

30年前に日本の美術市場規模は約2兆円あり、世界シェアの三分の一を占めていました。

それが現在では十分の一に縮小しています。

縮小した原因を分析し、その原因を取り除けば2兆円のマーケットに回復する可能性があります。ホワイトストーンは50年間アートビジネスに携わってきました。その経験をもとに、日本の美術マーケットの回復と併せて世界の美術マーケット拡大を目指します。



## 9.日本の美術市場の歴史的成り立ち

開国後、明治政府は欧化政策を推し進めた結果、軍事、経済面ばかりでなく、文化面でも欧米の影響が色濃く反映されました。特に芸術の分野においては、多くのアーティストたちが当時世界の芸術文化の中心と目されていたパリに留学し、印象派などの新しい西洋画の技法を学んで、日本独自の油画のスタイルを確立しました。梅原龍三郎や安井曾太郎を双壁として日本洋画壇という独特のシステムが出来上がる一方、徳川時代の日本の伝統的な絵画は横山大観や竹内栖鳳などを頂点にしてやはり日本画壇という独自のシステムの中に組み込まれました。いずれも政府系団体展「文展」（現在の「日展」）と在野系の団体展（「二科展」や「院展」）を中心に全国の美術商を束ねる「東京美術倶楽部」が核となり、欧米に例を見ない特殊な美術市場メカニズムが確立され制度化されてきました。美術商同士が作品を持ち合い、交換する「交換会」という業者のみのオークションが日本の主要都市で開催され、非公開の落札価格をもとに小売価格が形成されました。「交換会」の相場が右肩上がりのバブルの時代は、購入した美術品を「交換会」で換金しても、利益が出る場合もありました。しかしバブル崩壊以降、「交換会」の相場が五分の一から十分の一に下落しました。それに伴い美術商は小売価格を比例して下げるわけにはいかず（信用にかかわるので）ある程度のディスカウントで販売する手法をとらざるを得ず、小売価格と「交換会」の相場とのかい離が大きすぎて、購入者は大きな損失をこうむりました。それが原因で日本の美術マーケットは信頼を失い、十分の一の規模に縮小してしまいました。

30年前（1980年代）に国際的なオークション会社が日本の著名ホテルで数回国際オークションを開催しましたが、日本の業界団体との軋轢があり、日本からの撤退を余儀なくされました。当時日本の美術業界が国際オークションを受け入れていれば、日本の美術市場は世界に開かれたものになっていたでしょう。その地位は香港に奪われてしまいました。



## 10.日本のアーティストの受難

日本の芸術家にとって自らの作品の＜国際性＞つまり＜普遍性＞は誰しものが念願とするところですが、皮肉なことに徳川時代の独自の文化としての伝統絵画を除いてその＜国際性＞は大勢において今日まで認知されていないのが実情です。

草間彌生、奈良美智、村上隆などは数少ない例外で、彼らに共通するところは制度化された日本独自の美術市場メカニズムの外側に身を置いていたことです。彼らは若くして海外に雄飛し、海外の大手画廊と契約を結び、海外の画廊のプロモートにより＜国際性＞を獲得したのです。

「日本では国際的なアーティストは育たない」という事態は日本国の文化政策の失態以外のなにものでもありません。戦後飛躍的な高度経済成長を遂げてきた日本ですが、この点1点をみても文化面では先進諸国に大きな遅れをとっていると言わざるを得ません。

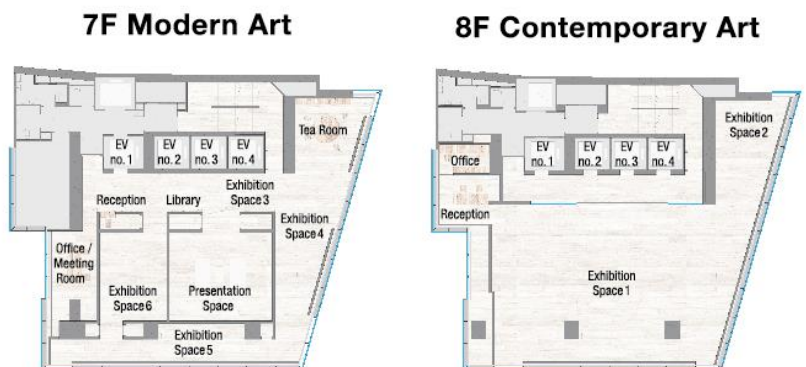




# 11. ホワイトストーン戦略

ホワイトストーンは創業以来日本の有能なアーティストを海外にプロモートする試みをしてまいりました。2010年にはロシアの国立美術館2館（ロシア美術館<サンクトペテルブルグ>、モアートアカデミー<モスクワ>）で日本の代表的なアーティストを紹介する「日本の美展」を開催し、3万人の観客を動員しました。また、世界の主要都市（ニューヨーク、ロス・アンゼルス、シアトル、マイアミ、モスクワ、ケルン、ロンドン、アブダビ、シドニー、リオ・デ・ジャネイロ、シンガポール、台北、ソウル、香港、上海、北京等）のアートフェアに積極的に出展し、日本のアーティストの紹介に努めて参りました。2012年には国際的リゾート地軽井沢に「軽井沢ニューアートミュージアム」を設立し、世界に通用しうるアーティストの展覧会を順次開催しております。

ホワイトストーンは創業以来日本国内に直営ギャラリーを各地に展開してまいりましたが、現在は銀座5丁目の「ホワイトストーンギャラリー」、銀座6丁目の「ホワイトストーン・ニューギャラリー」、銀座1丁目の関連会社のギャラリー「ニューアートラボ」に集約し、一方海外では2015年に香港にハリウッドロード店、ウォンチョクハン店2店を、2017年には台北にホワイトストーンギャラリー台北をそれぞれオープンさせ、日本の優秀なアーティストを紹介し続けています。さらに2018年春には香港のセントラル地区の巨大画廊ビルに2フロアーで800㎡の新ギャラリーをオープンする予定になっております。

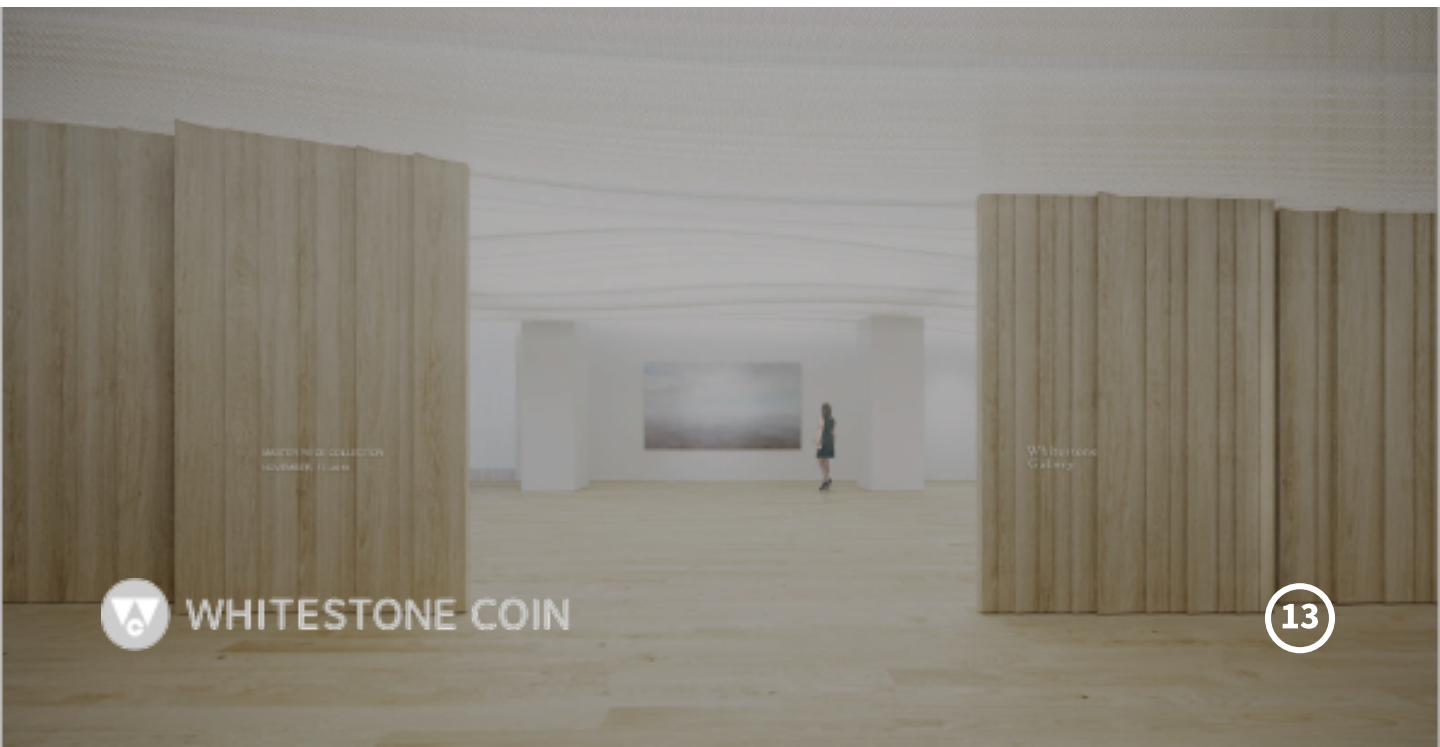


（HQueen'sホワイトストーン香港2018年3月オープン）

現在香港はアジアの美術マーケットの中心になっており、ニューヨーク、ロンドンに比べて急成長を遂げています。ホワイトストーンは香港の店舗を日本のアーティストを世界にプロモートするプロジェクトの拠点に位置付けていますが、将来はニューヨーク、ロンドンにも最大規模のギャラリーをオープンし、国内外の各店が連動してこのプロジェクトを推進していく計画です。

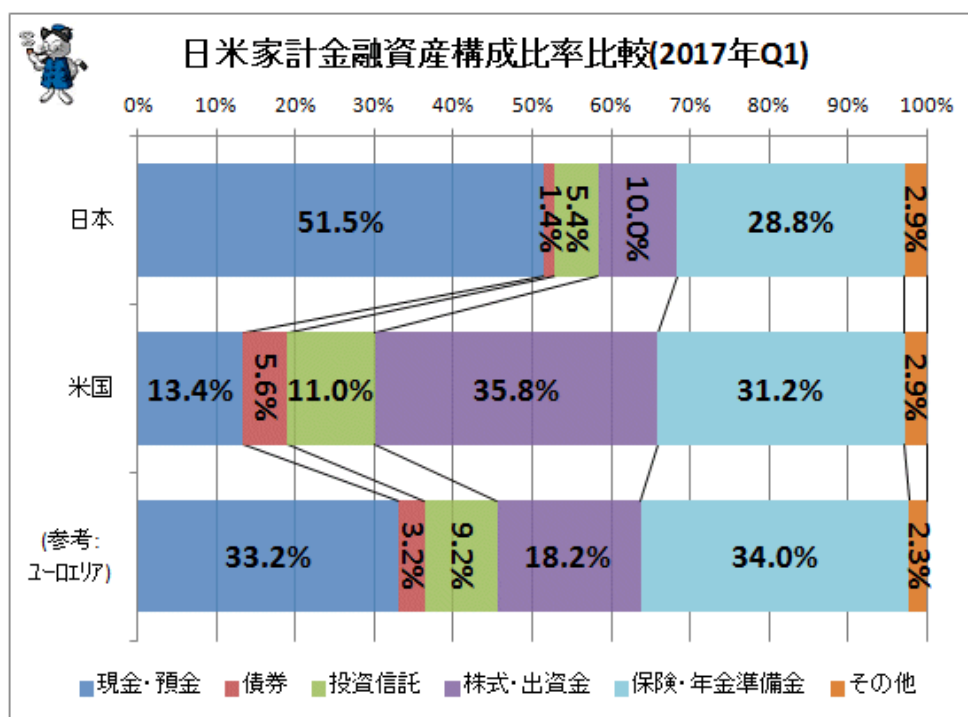
因みに世界最大のギャラリーといわれるガゴージアンはニューヨークに5店、ロンドンに3店、パリに2店、ビヴァリーヒルズ、サンフランシスコ、ローマ、アテネ、ジュネーヴ、香港に各1店、計16のギャラリーを保有し、2014年の売上は推計9億2千5百万ドル（約1,100億円）といわれています。その売上は世界全体の2.2%を占めていることになります。またこれは日本全体の美術市場の約48%に匹敵することになります。ラリー・ガゴージアン氏が最初の画廊をカリフォルニアにオープンしたのは1978年なのでわずか40年間の急成長です。

ホワイトストーンは50周年を迎えましたが、香港、台北の店舗の売り上げが好調なうえに、日本国内にも国際マーケットに目を向けるコレクターが増えつつある現状を背景に、国際的に事業を拡大していく計画です。





## 12.美術市場は規模拡大する



参照URL : <http://www.garbagenews.net/archives/2067203.html>

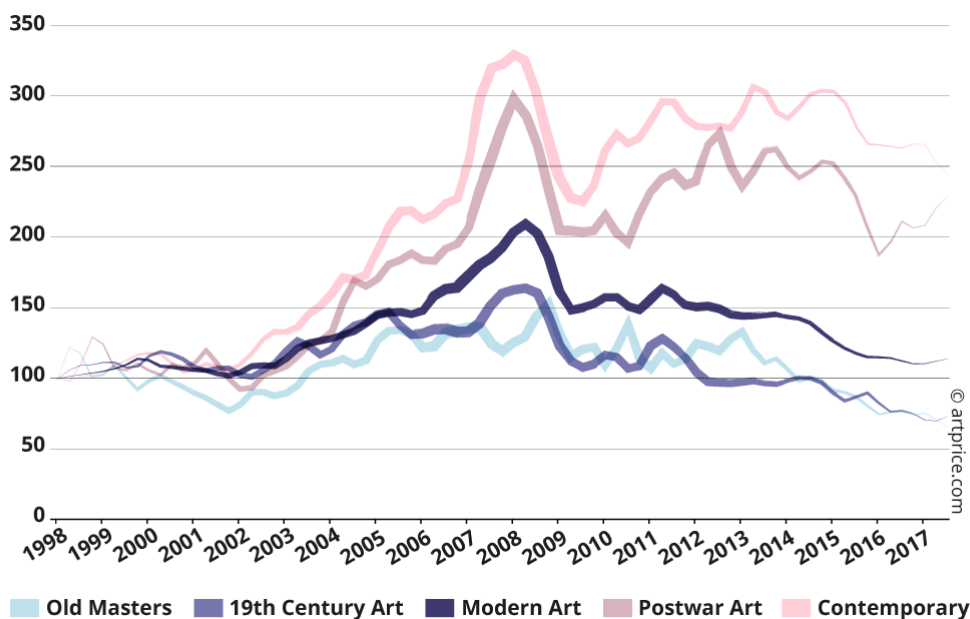
日本の個人の金融資産1800兆円の投資内訳をみると日本人は半分を預貯金で保有しています。アメリカは8000兆円に対して預貯金の割合が13.4%と低く、株式や保険の割合が高くなっています。美術品に投資する割合は世界全体でみても0.025%程度しかありません。

美術品は観賞価値がある上に長期的スパンでみるとインフレヘッジになります。美術品は芸術作品なので管理コスト、流通コストが株式、不動産、金などに比べて割高になります。しかし、芸術作品のある暮らしは人生を豊かにし、子孫代々まで知的資産として伝えることができます。

美術品の価格の上昇率を1998年を起点として20年間にわたり調査した結果がこのグラフです。19世紀絵画とオールドマスターはやや下落傾向、近代絵画は横ばい、戦後美術と現代アートは2〜3倍の上昇を示しています。国際オークションの落札価格は公開されていますので、誰でもネットで閲覧できます。自分の所有する美術品のおよその相場を確認できますし、また、国際オークションを通じて換金することもできます。このようなシステムが周知されるようになり、20000兆円の金融資産の0.1%程度（20兆円）美術市場に回ってくるだけで現在の世界美術マーケット規模7兆円が4倍になる計算になります。

世界美術マーケット7兆円のうち約3兆円がオークションでの売り上げです。世界の金融資産20000兆円の0.015%に過ぎません。世界のオークション会社がブロックチェーン技術を使った美術品取引プラットフォームを利用すれば20%〜40%かかっている流通マージンを半分以下に抑えることが可能になります。流通マージンと投資効率は反比例します。投資効率が上がり、20000兆円の金融資産の仮に1%程度の資金が美術マーケットに流入したとすれば、世界美術マーケットが200兆円にも拡大する計算になります。この場合現状の40倍という事になります。

弊社は独自に開発した美術品取引プラットフォームを世界中のアーティスト、ディーラー、美術館、美術愛好家の方々に開放し、多くの方々が日常的に美術品に親しめる環境を整えることを目指します。



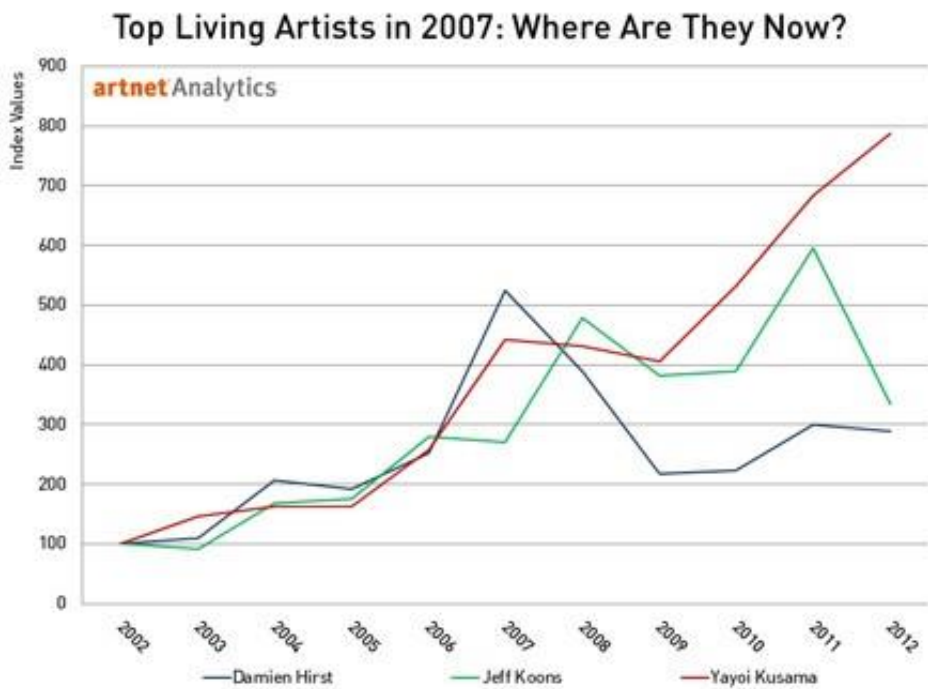
参照URL：<https://www.artprice.com/artprice-reports/global-art-market-in-h1-2017-by-artprice-com>



# 13.どのような美術作品に投資すべきか

—国際的評価の出遅れている日本の作家—

現代アートの価格上昇が目立ちますが、現存作家の中では過去10年間の上昇率は草間彌生が世界一です。草間彌生は80年代から90年代の不遇の時代を乗り越え、やっと脚光を浴びてきました。



参照URL：<https://news.artnet.com/market/once-again-where-are-all-the-women-artists-49720>



日本のアーティストで物故作家を含めて国際オークションで取引されているアーティストトップ10は以下のようになります。

アーティストトップ10 (2016)

#	Artist	Revenue(\$)	Auctionedlots	Topprice(\$)
1	YayoiKUSAMA(b.1929)	64,986,443	512	2,539,936
2	Yoshitomo NARA(b.1959)	29,903,701	202	3,103,911
3	KazuoSHIRAGA(1924-2008)	27,356,088	90	2,684,192
4	TsuguharuFOUJITA(1886-1968)	21,387,733	504	5,082,600
5	TakashiMURAKAMI(b.1962)	9,989,765	388	2,014,432
6	AtsukoTANAKA(1932-2005)	7,391,741	42	1,322,514
7	SadamasamOTONAGA(1922-2011)	4,470,626	162	629,520
8	ToshimitsuIMAI(1928-2002)	3,790,530	141	474,720
9	ShozoSHIMAMOTO(1928-2013)	3,503,853	53	333,560
10	HiroshiSUGIMOTO(b.1948)	3,397,476	124	389,170

この中で現存作家は草間彌生、奈良美智、村上隆、杉本博の4人です。物故作家の中で白髪一雄、田中敦子、元永定正、嶋本昭三は具体美術協会のアーティストたちで、ホワイトストーンは多くの在庫を保有しています。また、藤田嗣治、奈良美智の作品も積極的に在庫に加えています。現在1万点以上の在庫作品を保有しています。

## 14.優れたアーティストの発掘、育成

下表は2017年上半期における現代アートの売り上げの世界トップ25名のアーティストの売り上げデータです。25名の売上の総額が世界全体の現代アートの売上の約半分を占めています。

残念ながらこの中には入っている日本人は9番目に草間彌生だけです。日本の経済的实力や文化度からいっても10人の日本人がこの中に入っているても不自然ではありません。

	January–June 2017	
Ranking	Artist	Total Sales
1	Jean-Michel Basquiat	\$242 million
2	Andy Warhol	\$123 million
3	Roy Lichtenstein	\$84 million
4	Gerhard Richter	\$81 million
5	Cy Twombly	\$74 million
6	Francis Bacon	\$52 million
7	Peter Doig	\$47 million
8	Cui Ruzhuo	\$46 million
9	Yayoi Kusama	\$43 million
10	Rudolf Stingel	\$41.1 million
11	Jean Dubuffet	\$41 million
12	Christopher Wool	\$35 million
13	Lucio Fontana	\$31.9 million
14	Mark Grotjahn	\$31.7 million
15	Alexander Calder	\$31.1 million
16	Sigmar Polke	\$27 million
17	Robert Rauschenberg	\$24 million
18	David Hockney	\$23 million
19	Philip Guston	\$21.7 million
20	Keith Haring	\$21.76 million
21	Damien Hirst	\$19 million
22	Willem de Kooning	\$18.4 million
23	Zeng Fanzhi	\$18.1 million
24	Norman Rockwell	\$17.6 million
25	Agnes Martin	\$17.2 million



日本の有能なアーティストがドメスティックな市場システムに足をすくわれて、海外に雄飛できるチャンスを逃している現状を打破する必要があります。

そのためには（１）有能なアーティストの発掘、（２）世界で作品発表できる美術館及びギャラリーの開設、（３）国際オークション会社との連携の三つが必要です。これらを時代に先駆けて独自に開発した美術品取引プラットフォームを活用して行ってゆきます。

まず、（１）国際的な公募展を計画しています。これは10人の推薦人と、10人の世界の著名なコレクターで構成される審査員団による推薦式公募展です。受賞者は香港、台湾、軽井沢の美術館などで展覧会を実施し、ホワイトストーンは受賞アーティストのプロモートを開始します。

次に（２）世界の主要都市に最大級のギャラリーを設け、受賞アーティストの個展、グループ展を開催します。（東京、台北、香港は既に完成）さらに軽井沢ニューアートミュージアムが核になり、世界主要都市の著名美術館で受賞アーティストの展覧会を開催します。

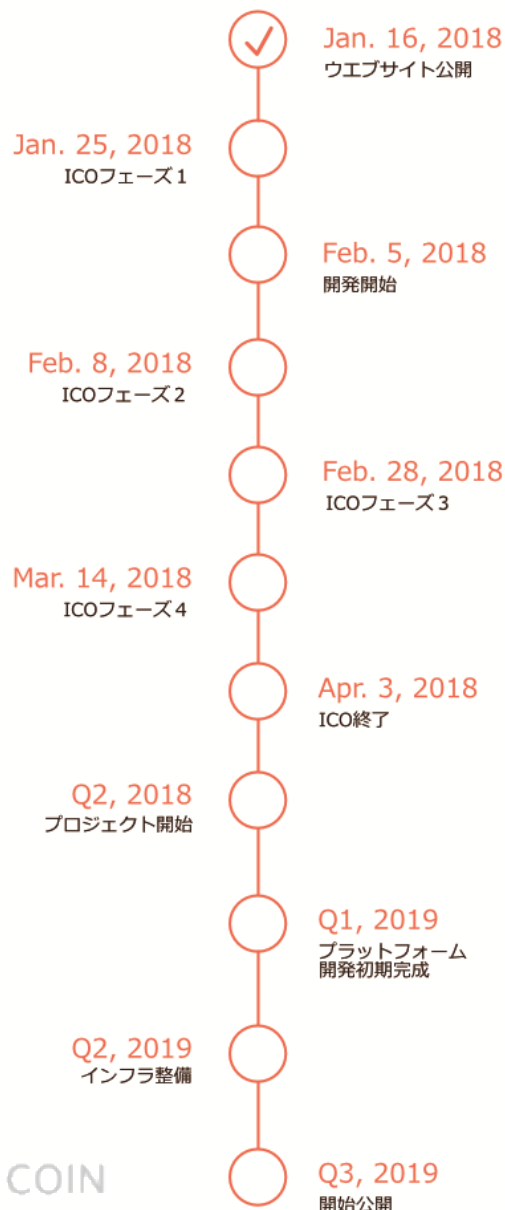
さらに（３）国際オークション会社と緊密な連携をとり、情報の共有を図っていきます。国際オークションの取り扱い銘柄にするには、世界各国に多くのコレクターを有する必要があります。ホワイトストーンはこれまでも世界16都市でのアートフェアに毎年出品し、たくさんのコレクターに作品を納めてきた実績があります。



## 15. ロードマップ

ホワイトストーンはロードマップに示したひとつひとつのプロジェクトを完遂させることに注力します。進捗状況の更新情報はEメールまたはSNSで提供していく予定です。

また、トークンセール終了後に取引所上場を目指します。現時点で複数の取引所と交渉しております。仮想通貨の取引所はWeb上に数多く存在します。ホワイトストーンのトークンもこれらの取引所でビットコインなどのメジャーな仮想通貨に交換でき、また、各国のリアル通貨にも交換することができます。その交換レートは需給によって変動し、ホワイトストーンの業績が上がると、トークンの価値も上昇することが想定されます。





## 16. チームメンバー

白石幸生（CEO ホワイトストーンギャラリー香港代表）

白石幸栄（COO ホワイトストーン社長）

三嶋由起子（CFO ホワイトストーン）

中嶋英幸（ホワイトストーン取締役）

能勢 潤（ホワイトストーン取締役）

大井一男（ホワイトストーンICO事業部長）

坂本美穂（軽井沢ニューアートミュージアム副館長）

XIE HENG（ニューアートコインICOプロジェクトマネージャ）

Stefan Buhrmester（ニューアートコインICOブロックチェーンエンジニア）



## 【協力者】

伊東順二（美術評論家、東京藝術大学 社会連携センター 教授）

土佐尚子（メディアアーティスト、研究者、京都大学学術情報メディアセンター教授）

高井章光（弁護士、リーガルアドバイザー）

土佐尚子 / トサ・ナオコ

1961年福岡市生まれ。国際的に知られた日本のメディアアーティストの先駆者。1980年代後半にMoMAのビデオアートのキュレーターバーバラロンドンの企画展“New Video Japan”に選ばれ、国際的に知られるようになる。芸術と工学の研究で、東京大学大学院工学研究科で博士号を取得。バウハウスのジョージケペシュが設立したMIT高等視覚研究所のアーティストフェローで芸術活動と研究を行う。

現在、京都大学学術情報メディアセンター教授、シンガポール国立大学客員教授。感情、記憶、意識の情報を扱ったコミュニケーションの可視化表現を研究する。フィルム、ビデオアート、CGを経てメディアアートからカルチュラル・コンピューティングの領域を開拓、システム構築を行なう。

主な展覧会は、ニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館、ロングビーチ美術館など。

主な受賞歴は、芸術と科学の融合に与えられるロレアル賞大賞受賞（1997年）、アルスエレクトロニカインタラクティブアート部門入賞（2001年）、ユネスコ主催インタンジブルヘリテージデジタルストーリーテリング公募展2位受賞（2004年）。2012年、韓国の麗水海洋万博委員会からコミッション作品を依頼される。250m x 30mのLEDスクリーンのEXPOデジタルギャラリーで、アジアをひとつにつなぐシンボル「四神旗」を制作し表彰される。2014年、実写のプロジェクションマッピングでグッドデザインアワード受賞。2015年、琳派400年プロジェクションマッピングで16000人を動員し、同作品はその後ミラノ博で公開される。2016年10月～2017年4月まで文化庁文化交流使としてイギリス、韓国、フランス、アメリカ、シンガポール、タイ、フィリピン、ニュージーランドを歴訪する。

# 17. リスク

トークンの取得には様々なリスクが生じる恐れがあります。トークンを取得する前にホワイトペーパーの内容を十分にご確認ください。リスクについては以下の通りです。

## ・ 秘密鍵の喪失により本トークンへのアクセスを失うリスク

秘密鍵は購入者のデジタルウォレットに保管された本トークンの受け取りに必要です。よって、購入者の本トークンが保管されたデジタルウォレットの秘密鍵を喪失すると、本トークンが喪失してしまう恐れがあります。

## ・ プラットフォームに関するリスク

本ICOで行う予定であるブロックチェーンによる美術品取引プラットフォームの開発が様々な理由により延期、中断等が生じるリスクがあります。また、適切なプラットフォームを完成させても不測の事態により開発前の期待を下回る可能性があります。

## ・ 購入した美術品の価値棄損リスク

ホワイトストーンが選定し、購入する美術品が不測の事態により将来的に大幅に評価が下落し、価値が棄損される可能性があります。

## ・ 不可抗力によるリスク

各規制当局が本トークンの技術および用途について、現行の規制をどのように適用するのかあるいは適用するかを予測は必ずしもできません。規制措置または法律の変更が、その法域での運営を違法であるとした場合、その法域での運営を停止する場合があります。



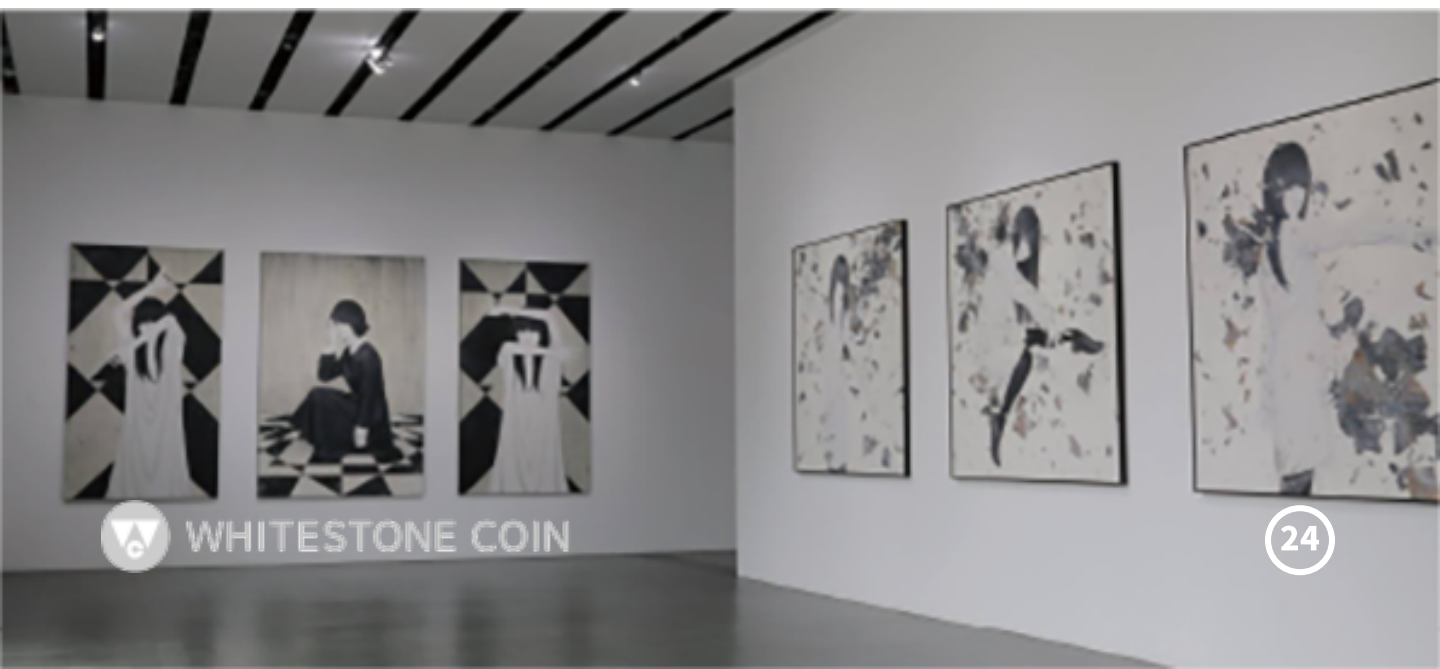
## 18. 最後に（代表あいさつ）

1967年に東京の中心・銀座に開廊して以来、ホワイトストーン・ギャラリーは、美術業界でも数少ない先駆的な存在であり続けてきました。2012年に軽井沢に設立した私設美術館・軽井沢ニューアート・ミュージアムに続き、2015年5月にはホワイトストーン・ギャラリー香港ウォン・チャク・ハン店、翌2016年には香港ハリウッド・ロード店をオープンさせました。日本人アーティストを国際マーケットで紹介するのみならず、海外のアートの動向を日本のシーンへと取り込むための第一歩でしたが、香港での二年間の経験は我々の視点をさらなる広汎な地域性へと押し広げる契機となりました。

そこで、公私ともにゆかりの深い台湾に2017年4月、ホワイトストーン・ギャラリー台北設立の運びとなりました。日本が誇る建築家・隈研吾氏デザインによる、革新的な現代アートの展示スペースです。

また、2018年の春には、世界的なギャラリーが軒を連ねることになるアート・コンプレックス・香港HK H Queen'sに、モダン・アートと現代アートの2セクションからなるホワイトストーンの新スペースが誕生します。国際都市・香港を舞台に、アジアのみならず欧米の強豪ギャラリーとの切磋琢磨に、我々は進んで梶を取っているのです。皆様のより一層のご愛顧とご支援をここにお願い申し上げる次第です。

（白石幸栄 ホワイトストーンギャラリー 代表）



## ホワイトストーン沿革

1967	白石画廊(現 株式会社ホワイトストーン)創業
1978	画廊を銀座に移転
2012	軽井沢ニューアートミュージアム設立
2015	ホワイトストーンギャラリー 香港開設
2017	ホワイトストーンギャラリー 台湾開設 ホワイトストーンギャラリー Ginza New Gallery 開設
2018	ホワイトストーンギャラリー H Queen's 開設

【参考：ホワイトストーンギャラリー ホームページ】  
<https://www.whitestone-gallery.com/>

